

放射線科

文責：金子 隆文

概要

R2年度より、箕田俊文、金子隆文、狩野裕一、の常勤3名と、非常勤：小池晋司（週二回半日）の4人体制に医局員が変更された。

業務内容は昨年同様、検査（MDL・DDL・血管造影・IVR（一部））、読影（CT・MRI・RI・PET）、dataの整理、健診（健康管理科フィルム読影の一部お手伝い）、及び、放射線治療、日当直業務を行ってきた。

診断検査部門では、CT二台（各々H25.9.24、H27.12.1更新済）による、心血管、骨軟部組織、等々の各種臓器の3D表示。MRI二台（第1MRI(1.5T)更新H29.12.11第2MRI(3T)更新R2.3.01）によるMRA・MRCP脳血流、心機能解析。PET検査による癌診断など、新しい分野での画像診断も定着し、さらなる検査精度の向上や時間短縮が得られている。また、血管造影装置2台、RI検査部門でも、ガンカメラ装置の更新がなされた。またR2.6月からはハイブリッドオペ室での機器運用が始まっている。病院オーダリングシステム（HISおよびRIS）では、放射線検査データのデジタル保管及び、PC端末を利用したレポートシステムが順調に稼働。H24年度より開始のフィルムレス運用も、従来のフィルムの代わりに、各診療科外来・病棟のPC端末で画像デジタルデータおよびレポートが、参照・運用されている。なお、2019年度末より富士通社製の電子カルテへの移行がなされた。

医療機器共同利用システムとして、病診連携室の協力も得て、PET,CT, MRI, RI検査等（放射線検査）の院外診療施設よりの直接依頼受入体制（検査直接申し込みによる外来検査予約とし、紹介状と検査依頼書の作成添付をお願いし、検査当日の報告時には、検査フィルム+検査報告書を原則添付）も順調に稼働している。こちらも従来のフィルムその他、フィルムレス化しデジタルデータ管理（CDに画像viewer soft付き DICOM dataとして記録したもの）の添付とともに、院外へのネット配信も可能としている。

治療部門は、CTをベースとした治療計画システムと、患者固定装具の導入、治療室同室CT装置導入で、定位集光放射線治療も可能な設備とし稼働している。なお、R3年1月からの、新規の治療装置（Linac）更新に向けて準備が進められている。また、H23.11.4より、泌尿器科と共に、前立腺密封小線源治療が順調に稼働している。

画像検査部門：年間検査件数（2019.4.1-2020.3.31）レポート件数は、CTが15795（院外182）件、MRIは5055（院外324）件、RIは235件、PETは413（検診0、院外68）件であった。CTとPETで件数の微増傾向。MRIとRIで微減傾向がみられる。MRIの件数に関しては、機種更新に伴う工事の影響が考えられる。他、IVRは、血管造影が約46件で、これに加えCT下穿刺が多数施行された。消化管透視は77件（上部31件 下部46件）で、こちらは減少傾向であった。

放射線治療部門：外照射治療及び治療計画は、月～金の連日午後外来としている。因みに、新患登録（H31.4.1～R2.3.31）91例、外照射治療計画件数は112件（追加計画16含）であった。前立腺密封小線源治療は、2-3例/隔週～3週/月の木曜日1日で67例（外照射併用7例含）であった。他、癌骨転移症例に対し放射線同位元素内用療法（Ra治療）3例が施行された。